

本時案（第3時）	
本時の目標	自分が表したいイメージをもち、題材の特徴を捉えた踊り方を工夫することができる。
学習活動	教師の支援や評価（◎）
1 心身をほぐす。（リズムダンス）	○ 体ほぐしの運動を行う時間を設けることで、心と体をほぐし、思い切り体を動かすことができるようにする。
2 表現する。（ぞうきん、フィギュアスケート、納豆）	○ 前時を振り返り、手がかりを確認する。その後、体・友達との関係・位置・速さを手がかりに変化をもたせることができるような題材を与えることで、多様な動きを経験し、表現運動に生かすことができるようにする。
3 共有する。	○ マイクを通して、教師が児童の踊りを称揚したり、紹介したりすることで、自然と友達の踊りを見て動きを広げることができるようにする。
4 問いを確認する。	○ 前時で確認した手がかりをもとに動きを広げている児童を称揚したり、一緒にやってみたりすることで、動きの広げ方の見通しをもつことができるようにする。
問い どうすれば動きを広げることができるかな？	◎ 友達の動きや状況の変化に合わせて、ひと流れの動きで即興的に踊ることができる。（知識及び技能）
今日はどんなことが起こるかな。 どんな手がかりを使えば、表したいものを表せるかな？	○ 前時までに獲得した手がかりをホワイトボードに掲示しておくことで、見通しをもって踊ることができるようにする。
5. 表現する。（小人の世界～給食時間編～）	○ どんな工夫をして踊ったかを共有することで、手がかりを増やし、表現運動に生かすことができるようにする。
A児の例 あつあつのスープだ！なるとの上に乗ってみよう。なるとに乗るとぐらぐらするから、手や足をくねくねさせてみよう。	○ 空想の世界に引き込むための声掛けをしたり、音楽を流したりすることで、小人の世界に没入して踊ることができるようにする。
落ちそうだ！片足を上げてバランスをとって落ちないようにしてみよう。	○ 給食の写真をスクリーンに提示することで、イメージを広げ、「遊びたい！」という気持ちをもつことができるようにする。
B児の例 おもちゃでつなひきをしたいな。友達と引っ張り合ってみよう。	○ 「体を〇〇して踊ると、〇〇が表せたね。」というようなイメージと動きがつながるような声掛けをすることで、手がかりを使って広げていったということを価値付ける。
友達の力が強くて、引っ張られる！前に動いてみようかな。	○ 動きが止まっているグループには、教師と一緒にになって踊ったり、他のグループの踊りに自然と入れるような声掛けをしたりすることで、イメージをもつことができるようにする。
手や足をくねくねさせると、なるとの上で揺れているのが表せたよ。	◎ 友達の動きや状況の変化に合わせて踊り方を工夫している。（思考力・判断力・表現力等）
友達が後ろに下がると私は前に行って位置を変えると、引っ張り合っているのが表せたよ。	○ 「～すると、～が表せた。」ということを共有することで、一人ひとりが動きの広がりを実感することができるようにする。
6. まとめをする。	○ 楽しかったことや友達のよかったことを友達と振り返る時間を設けることで、互いのよかったところを認め合うことができるようにする。
7. 振り返りをする。	

--	--